



## コロナ禍でもすべての世帯が安心して参加できる防災訓練を目指して!



愛知県名古屋市 白鳥学区防災安全まちづくり委員会  
委員長 中田 俊夫

### 1 はじめに

私たちが暮らす白鳥学区は、熱田神宮を囲む住宅地で、歴史的遺産が数多くあり、歴史へのロマンを感じることができる地域です。

近年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大をうけ、従来の手法による防災訓練の実施が困難な状況にある一方、コロナ禍だからといって災害は待ってはくれません。当委員会の所在地であるこの東海地方も、南海トラフを震源とする巨大地震の発生が危惧されており、住民の備えが喫緊の課題となっています。

従来の防災訓練の手法では、各町内会から動員された一部の役員だけが参加していることが多く、実際に自主防災訓練に参加したことがあるという方が増えておらず、住民全体の防災意識の高揚が図れていない懸念があります。

そこで、このコロナ禍でもすべての世帯が安心して訓練に取り組めないかを検討しました。

### 2 コロナ禍でも出来る 防災訓練の検討

平成7年に発生した阪神・淡路大震災では、亡くなった方の9割以上が発災から短時間で亡くなったという調査結果もあります。このことから、地震発生初期に隣近所で安否を確認し、被害に気付き、早期に救出することができれば、発見が遅れることで失われる命を救うことができます。

当委員会では、地震発生初期に隣近所で助け合えるよう、救助が必要な人を早期に把握することを目的として、町内会加入世帯だけでなく、未加入世帯を含めた全ての世帯を対象とした安否確認訓練を実施することとしました。

訓練を実施するにあたり、地震災害が発生したときに活用する「安否確認札」を各世帯に、また、「無事ですシール」を各町内会の組長へ事前に配布するとともに、訓練の流れや手法についての説明資料や集計用紙等を作成周知しました。

訓練内容はシンプルに各世帯において「安否確認札」を玄関ドアに掲げ、各町内会の組長が地域内の各世帯を回って、安否確認札の掲出状況を確認し、掲出されていない世帯には声掛けを行い、応答のあった（実災害では無事であることが確認できた）世帯には「無事ですシール」を貼ることで、安否の確認ができた世帯として確定し、安否確認の結果を町内会長に報告することとしました。

※1：安否確認ができなかった世帯は、地震災害において被災者となった世帯と類推することができ、近隣住民が協力して早期に被災者を助けることが可能となります。

※2：近隣住民が協力できる体制を整えるためには、日常における住民同士の交流が大切です。また、町内会や学区の行事を切掛けとして、住民同士が知り合いとなったり、交流する事で、心の絆を太く強くする事が大切になります。



安否確認札



安否確認札の掲出を確認



札が無くインターホンで確認出来た場合に貼るシート



白鳥学区へ報告（コミセンポスト投函）

### 3 改良点と取組成果

まず当委員会に所属する3つの町内会の全世帯を対象とした一斉の安否確認訓練から始めました。翌年には、その手法を元に、当委員会（白鳥学区）のすべての世帯（約7,500世帯）を対象に拡大した訓練を実施しました。

令和3年度からは、その手法をコロナ禍でも実施可能な非対面・非接触に改良し、熱田区内の町内会未加入世帯を含めた全世帯（約35,000世帯）を対象に実施しました。

改良点は、確認札未掲出世帯でインターホン越しに確認し、町内会長・学区への報告は、ポスティングとして非対面・非接触としました。

結果、従来の町内会の一部の役員に限定されていた訓練参加者を、熱田区の全世帯に広め、より多くの世帯の防災意識の高揚を図ることができました。

### 4 おわりに

ある町内では、1組だけ報告がない事が判明したため、役員が連絡した所「急用で親戚へ来ています。連絡せず申し訳ない。」との返事があり、役員が当該組の安否確認を実施するなど一部でトラブルも発生しましたが、実災害なら尚更、このようなことが起きます。訓練終了後、住民から「防災意識が向上する訓練だった。毎年やってほしい。」等の声が多数寄せられたことから、継続を心に強く誓った日となりました。